

# 第三章 掘り起こし運動から 保存運動へ



中原平和教育学級や高校生の掘り起こし運動によって、登戸研究所は多くのメディアでとりあげられ、市民の間にも関心がさらに広がっていきました。

1990（平成2）年、旧登戸研究所本館の取り壊しが決定されたことから、登戸研究所遺構を保存しようという声が市民の中からあがり、同年に「旧陸軍登戸研究所の建物を保存する市民の会」が発足、署名運動を展開し、12月14日に登戸研究所遺構の保存を求める署名3,339名を川崎市議会に提出しました。この請願を受け、1991年、川崎市は旧登戸研究所本館の内外をビデオで撮影し、川崎市平和館に記録保存することを決定しました。また、1991年6月には、川崎市平和館への移築保存を求める請願書も提出されました。

この保存運動は、1998年より実施される文化庁の「近代遺跡調査」において登戸研究所遺構が調査対象になるきっかけともなりました。さらに、2002年には国の文化財指定を念頭に入れた文化庁の全国戦争遺跡調査リストに登戸研究所が入り、文化庁による詳細調査も行われました。

また、登戸研究所の掘り起こしを自分たち自身でもはじめた登研会においても、明治大学内に残る登戸研究所遺構の保存と活用を望む声があがります。そして、1999年9月、当時の戸沢充則明治大学学長宛の「旧陸軍登戸研究所建物等保存について（お願い）」が登研会によって用意されました。

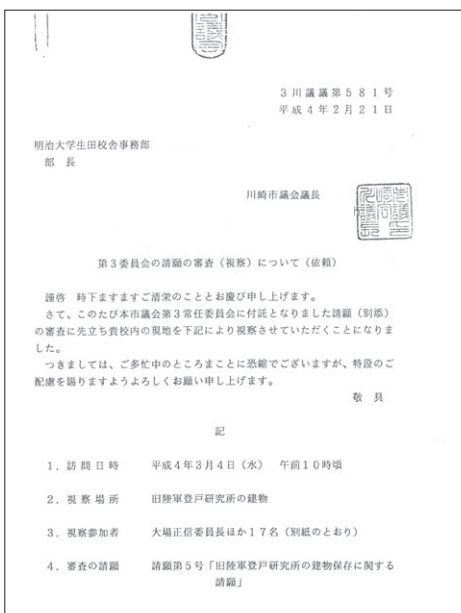


図12 「第3委員会の請願の審査（視察）について（依頼）」

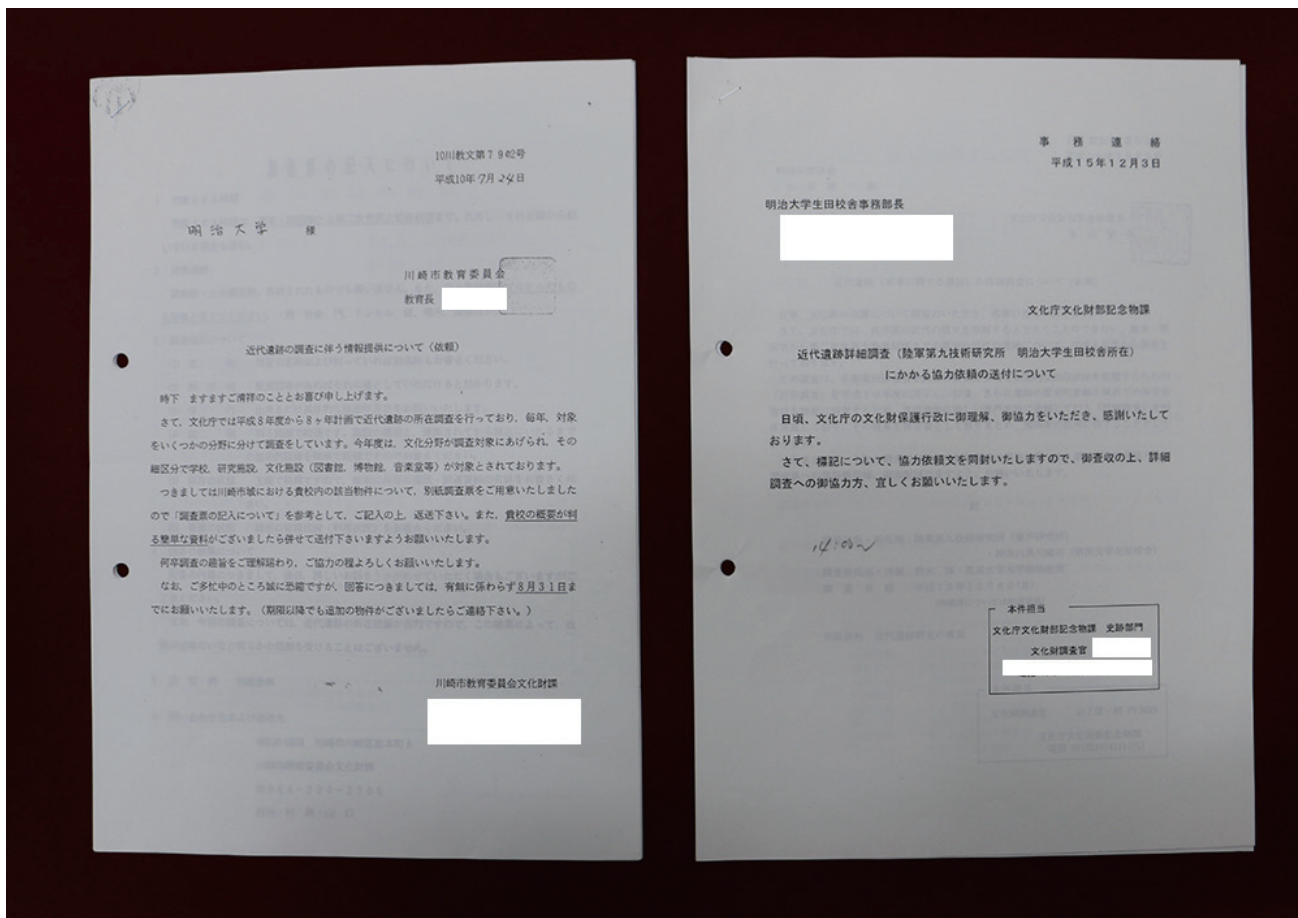
市民の請願を受け、川崎市議が生田キャンパスを視察に訪れた。訪れた市議の中には、登研会員でもある元登戸研究所勤務員の議員もいた。（明治大学所蔵）

**資料館ができれば幸せです** 所属など不明男性の妻

**建物保存賛成です** 経理, 女性

**研究所2科の保存は適当とは思わない** 第四科, 男性

図13 登戸研究所遺構の保存と活用についての登研会メンバーの声  
渡辺賢二氏所蔵「登研会ファイル」より



(左) 「近代遺跡の調査に伴う情報提供について（依頼）」

1998（平成10）年7月24日 | 川崎市教育委員会 | 明治大学所蔵

(右) 「近代遺跡詳細調査（陸軍第九技術研究所 明治大学生田校舎所在）にかかると協力依頼の送付について」

2003（平成15）年12月3日 | 文化庁 | 明治大学所蔵



明治大学

平成11年9月 日

学長 戸沢充則 殿

旧陸軍登戸研究所職員の会

登研会 代表 山田 愿 蔵

### 旧陸軍登戸研究所建物等保存について

(お願い)

#### 1 お願いの趣旨

貴明治大学生田校舎内の旧陸軍登戸研究所の一部建物等を、戦後半世紀以上永きに亘り維持保存されてこられたことは、大学ご当局の深いご理解があったればこそと「登研会」会員一同深く感謝申し上げる次第です。

改めて申し上げるまでもなく、生田校舎と隣接の三田地域の一部は終戦時まで旧陸軍登戸研究所が使用していた場所であり、特に生田校舎内に保存されてきた一部建物等は当時の歴史的事実を証明する唯一無比の遺跡であるとともに、その昔ここに在職してきた私達にとっては忘れることの出来ない場所でもあります。

以上の趣旨に基づき私達は大学ご当局が、折角のご配慮で現在まで保存されてきた建物等を「昭和史を語る歴史的遺跡」として、今後も引き続き維持保存され、一般市民にも公開される等、ご配慮を賜りますようお願いいたします。

#### 2 お願い事項

- ① 現存する旧陸軍登戸研究所の一部建物等の維持保存の継続してください
- ② 保存される建物の有効利用（資料を整備して一般にも公開する等）してください
- ③ 既に散逸して終わっている関係資料の収集を行ってください（私たちも出来るだけ協力いたします）

## 戸沢学長宛「旧陸軍登戸研究所建物等保存について（お願い）」

1999（平成11）年9月 | 登研会会長 山田愿蔵 | 渡辺賢二氏所蔵

明治大学内の登戸研究所保存の方針が変わったため、提出は叶わず登研会事務局長の和田一夫がずっと持っていたもの。

# 第四章 明治大学平和教育 登戸研究所資料館 設立へ



## 1 明治大学内での保存運動と 学術的研究のはじまり

1994(平成6)年, 明治大学は26号棟(旧偽札倉庫)取り壊しを決定しました。それを知った明治大学在學生, 教職員らが「旧陸軍登戸研究所の解体に反対し保存を求める会」(以降, 「保存を求める会」)を結成, 学内での保存運動を展開しました。これまで, 川崎市へ移築保存を求める運動が市民によって続けられてきましたが, 「保存を求める会」の運動は明治大学に保存を訴える初めての保存運動でした。

学内での保存運動が展開される中で, 明治大学として登戸研究所を検証する重要性を感じた海野福寿(当時明治大学文学部教授, 保存を求める会共同代表), 森恒夫(当時経営学部教授, 保存を求める会共同代表)ら明治大学教員と渡辺賢二は, 明治大学人文科学研究所の総合研究として登戸研究所を取り上げることを決め, 1994年, 大学によって採択されました。

こうして, 1995年度から3年度間, 初めて組織的な学術調査が行われることとなりました。また, 大学としてもすでに決定していた26号棟など旧登戸研究所遺構の取り壊しを調査研究のため3年間凍結することを表明しました。

表2 人文科学研究所総合研究「旧陸軍登戸研究所の総合的研究—十五年戦争におけるその意義」の主な研究成果

写真家・吉田一法氏に依頼し, 生田キャンパス, 疎開先である長野県・福井県・兵庫県, 人体実験を行った南京病院, 阪田機関本部(上海)を取材およびスライド記録を作成。
元所員の証言を基に第三科疎開先である福井県武生 <sup>たけふ</sup> および栗田部 <sup>あわたべ</sup> を調査。登戸研究所「北陸分廠」として接収した加藤製紙・西野製紙を調査し, 疎開先での第三科の活動を明らかにした。
疎開先である兵庫県小川村を調査。「関西分廠」の活動を明らかにした。
元所員の証言を基に, 静岡大学に終戦直後登戸研究所から寄贈された「登戸研究所」蔵書印がある書籍約1,000冊を発見。
『雑書綴』復刻。(第三展示室に展示中)
研究成果をまとめた『陸軍登戸研究所』(青木書店, 2003年)刊行。



## 旧陸軍登戸研究所の解体に反対し保存を求める会 結成声明

私達は昨年、七三一部隊展企画を通して、侵略戦争の歴史を知り、二度と繰り返してはならないことを心に誓ってきました。そして生田祭での登戸研究所見学を通して、このように身近に戦争の跡があるにもかかわらず今まで無自覚でいたことを反省し、この研究所が行ってきたことを学び、調査してきました。

陸軍第九研究所（登戸研究所）は、1939年に開設され以降、謀略戦の基地としてスパイ用機材や生物化学兵器（細菌、毒ガス開発など）、偽札印刷から風船爆弾の製造まで、陸軍の中で最大規模の秘密研究所として敗戦まで機能しました。中国で七三一部隊等によって行われた人体、生体実験との関係をはじめ未解明な部分も数多くあります。敗戦時に陸軍省より研究内容の隠滅が指示され、偽札の焼却に二〜三週間かかり、また多くの実験機材が運び出されたり埋められたりしたと聞いています。登戸研究所は勤務者に厳しく箝口令が敷かれ、他の部署のことはまるで知らなかったと言ほどの秘密基地でした。今日でも歴史の資料として貴重なものであり、事実の究明に使われるべきであると考えます。

戦後五十年を経て今日、アジア各国から戦争責任を問う声が高まっています。南京をはじめとする各地での虐殺、人体実験、強制連行や従軍慰安婦の問題など多くの隠された歴史に光をあて、日本軍の蛮行を許さず、再び過ちを繰り返さないことが日本にいる私達の責務であると考えます。そうした意味で、登戸研究所の中で行われた実験やその結果、アジアの人達にもたらした被害などを調べ、後世に記録を残して行くことは非常に重要です。

生田地区では各校舎の新設や改築に伴って、戦争時には数十棟あった建物が年々取り壊され、現在は本造二棟と鉄筋二棟を残すのみになっています。そして木造建物であり解剖室であった二六号棟は、放置され腐朽するままにされ、防災を理由に四月半ばにも取り壊される予定であることが新聞記事になりました。

この十年あまりで当時の本館や第一課建物、冷温室や写真研究所、食堂や会議室であった建物などが次々と壊され、建物の配置も変わり登戸研究所の跡は次々と消されてきました。そこに研究所があったことを全く知らない学生や教職員も少なくありません。

私達は明治大学に関わるものとして、この歴史を広く知らせ、残していかななくてはならないと考えます。戦争の歴史を研究している人達や七三一部隊展に参加した多くの学生、教職員や地域の人々からもこうした声が寄せられています。

私達は明治大学に対して、残された登戸研究所建物の撤去に反対しこれらを保存することを要求していきたいと考えます。教育の場であり研究の場でもある大学にとって、撤去ではなく保存していくことこそ意義です。安易な解体、撤去は未解明な部分の究明を不可能にする取り返しのつかないことであり、してはならないことだと考えます。私達は大学当局に保存の方向のない解体、撤去計画の中断を要請します。保存に向けて学内で論議を高め、登戸研究所の内容調査と記録をすすめていかなければなりません。

多くみなさんが大学当局に声を上げ、また登戸研究所の調査研究に向けて協力されるように訴えます。

1994年3月31日

旧陸軍登戸研究所の解体に反対し保存を求める会

代表 海野福寿（文学部教授）  
（生協専務理事）  
森恒夫（経営学部教授）  
（学苑会中執委員長）

## 「旧陸軍登戸研究所の解体に反対し保存を求める会」チラシ

1994（平成6）年 | 旧陸軍登戸研究所の解体に反対し保存を求める会 | 明治大学所蔵

結成声明，呼びかけ人募集，講演会のチラシ。駿河台，和泉，生田各キャンパスで配布された。





旧陸軍登戸研究所の解体に反対し保存を求める会 駿台祭企画

— 隠された戦争の実態に迫る —

**講演会**

1994年11月6日（日曜日）13:00～ 駿河台校舎12号館6階

\* 旧陸軍登戸研究所をめぐって  
講師：和田一夫さん  
旧陸軍登戸研究所に1938年から勤務、怪力光線の研究等に従事した。戦争がいかに非道なものであるかを知らせるために「昭和と共に生きて一わが人生の足跡」を執筆。各地で証言を続けている。

\* 従軍「慰安婦」制度をめぐって  
講師：川田文子さん  
ノンフィクション作家。従軍「慰安婦」制度を研究する傍ら元「慰安婦」たちの支援も惜しまない。「つい昨日の女たち」「琉球弧の女たち」「赤瓦の家」「皇軍慰安所の女たち」「ふっ子さん保育園をはしる」等著書多数。

91年夏、韓国の金学順（キムハクスン）ハルモニが50年の沈黙を破って「従軍慰安婦」にされたことを明らかにしました。ハルモニ達が日本政府に謝罪と補償、真相究明を要求する行動を起こしてから既に3年がたちます。しかし日本政府はこの夏に発表した「民間募金」による「見舞金」案をもって結論にしようとしています。この案は国家の責任を認めず、「慰安婦」制度の真相究明や責任者処罰、個人への謝罪と補償を求める声を全く無視したものであり、決して納得することはできません。

私達は今回、50年余りも前に葬られ、彼女達の叫びがなければ全く明らかにされてこなかった従軍「慰安婦」制度の歴史と背景を学び、戦争の実態に迫りたいと思います。是非御参加下さい。

毎日新聞 9月28日神奈川版

慰安婦の記録  
Reprinted from Asahi Shimbun, 9/28/94, '慰安婦の記録' (Records of Comfort Women).  
Copyright 1994 Smithsonian Institution.

旧陸軍登戸研究所の解体に反対し保存を求める会の  
呼びかけ人、 会員になってください

3月31日、私たち「旧陸軍登戸研究所の解体に反対し保存を求める会」は、教職員・学生・生協従業員に参加により結成会議も持ち、出発しました。

明治大学生協が陸軍研究所であったことは、現在は大学関係者にもあまり知られていません。しかし旧陸軍研究所のなかで最大の規模であった第九研究所（通称登戸研究所）は、中国一ア字登戸や対馬艦・対馬砲臺で知られた兵器を産出し、スパイ用資材、生物化学兵器、偽札印刷や風船爆弾まで実験し製造した秘密基地として、当時は大きな位置をもっていました。現在でも研究内容など不明な点がたくさん残されています。

戦後五十年を経て、建物は年々解体撤去が進み、新しい総合として新設され、今や二棟、鉄骨二棟を残すのみになりました。この一月、朝日新聞に二十六号棟の解体・撤去が報道されたからは、歴史研究者や川崎市民をはじめ多くのの方々から保存をしようと声が上がっています。

私たちは明治大学に関わるものとして、この施設の安易な解体と撤去に反対し、保存と調査、資料収集を大学当局に求めていきたいと考えています。歴史的に価値があり、今も戦争の跡をはっきりと語る施設の保存や資料の展示は、大学にとって非常にふさわしいことであり、後世に戦争の過ちを記憶して残すことは大学の義務でもあると考えています。

過日、私たちは大学理事会に対して施設の保存を求める申し入れを行い、署名六六三名を提出しました。新学期には生田地区でパネル展示、登戸研究所見学会などを行いました。

今後は研究者の講演会などいろいろな企画を準備していきたいと考えています。是非、多くのおみなさんが私たちの会に参加され、ご協力下さることを訴えます。

[ 取り願ってください ]

- 1) 明治大学理事会と学長宛の署名を、周りの人からできるだけ集めてください。
- 2) 呼びかけ人、又は会員になってください。年間会費は教職員、社会人は二十円、学生は五百円です。呼びかけ人は、この運動を広く呼びかけるためお名前を公表させていただきます。公表不可の場合はその旨お書き添えください。また協力して下さる方をご紹介ください。
- 3) 当時の記録者や研究者に関わっていた人をご存知の方は教えてください。当時のことで何かご存知の方には教えてください。保存の方法などアイデアを寄せてください。
- 4) 現存する建物からわかること、保存の方法などアイデアを寄せてください。
- 5) 調査、調査、映像化など、できること何でもご協力下さい。

月例会をひと月に一回おこない、活動の報告や学習などします。こちらの方にもご参加ください。

以上を郵送下さるか、連絡先までお電話ください。よろしくお願ひします。

旧陸軍登戸研究所  
建設・解体写真

旧陸軍登戸研究所の解体に反対し保存を求める会  
神奈川県川崎市多摩区三田1-1の1 明治大学生協生田店  
☎044(835)5795

代表 / 高野福寿（文学部教員）、（生協職員）、森恒夫（経営学部教員）、  
（学友会中執委員長）

呼びかけ人 / 浅井イソルチ（文学部教員）、西内亮一（経営学部教員）、岩木達朗  
（法学部教員）、氏家洋子（経営学部教員）、川竹英克（経営学部教員）、岸本行平  
（職員）、木下信夫（名誉教授）、工藤重（農学部教員）、阪井和男（法学部教員）、  
田原謙章（文学部教員）、立花理一（理工学部教員）、岡井智路（法学部教員）、  
戸部光則（文学部教員）、トロール・ヘルマン（教養学部教員）、中川謙一郎（教養  
学部教員）、西山久徳（農学部教員）、三上昭彦（文学部教員）、矢内健二（生協職  
員）、山本恒（政経学部教員）、他匿名3名 4月27日現在  
ツイエオ期・敬希略

切り取り

〇を付けてください。

呼びかけ人      会員      になります。

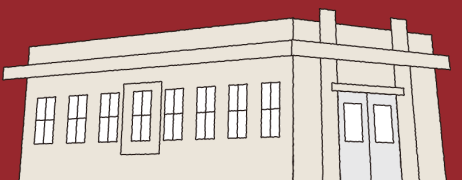
学生              社会人      です。

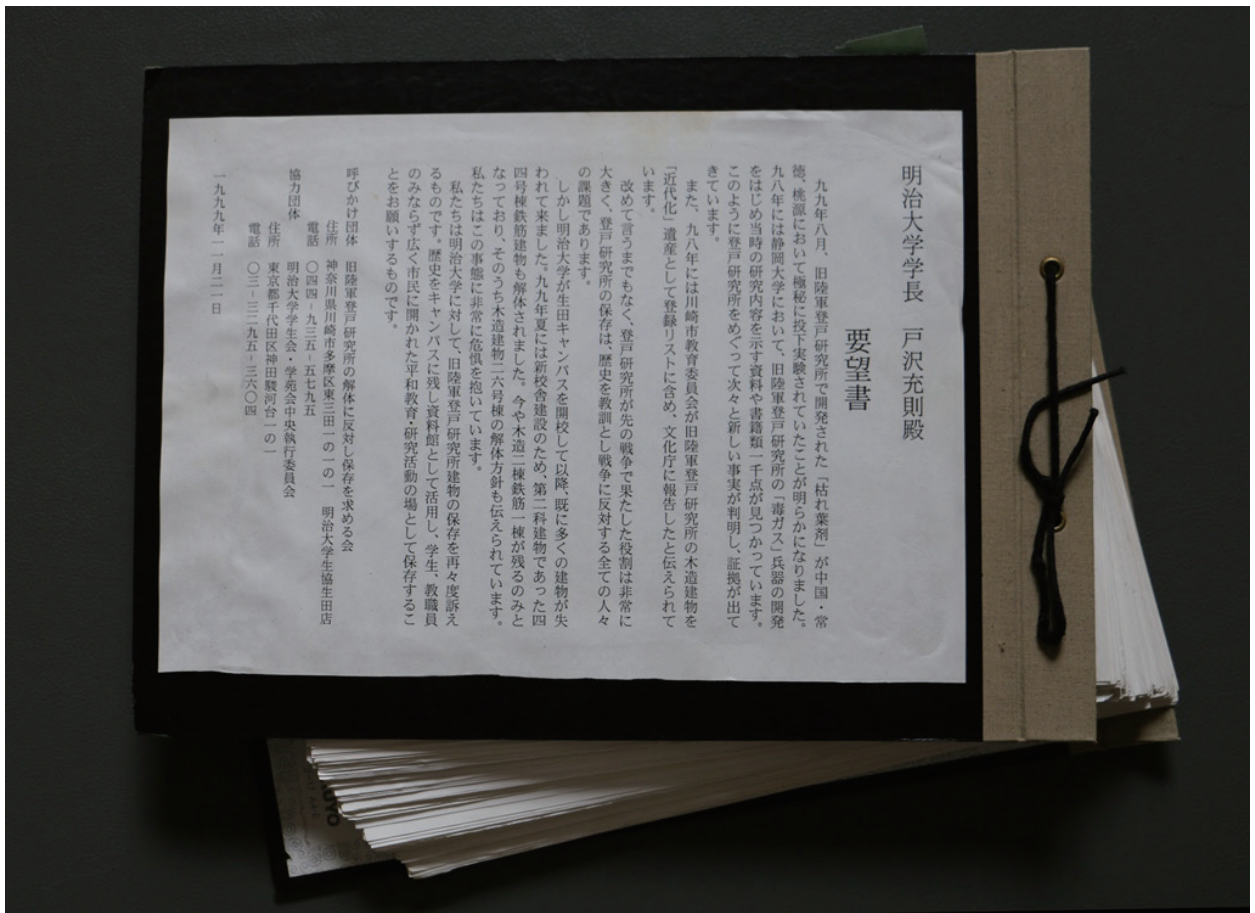
（明治大学の 教員・職員・学生・生協従業員 です。）

あなたのお名前 \_\_\_\_\_

ご住所 \_\_\_\_\_

電話番号 \_\_\_\_\_





## 要望書および署名

1999（平成11）年11月21日 | 旧陸軍登戸研究所の解体に反対し保存を求める会、他 | 明治大学所蔵  
サークル・部活や教員など学内関係者、元登研勤務員、市民から明治  
大学学長に、登戸研究所遺構の保存と活用を求める要望書と306筆  
の署名。

